

地区懇談会

を開催しました

昨年10月2日から11月12日まで、市内23カ所地区懇談会を開催し、議員や職員を含む延べ約950人の市民の皆さまに参加をいただきました。
先月号(前編)では、出されました総数277の意見や要望などの中から抜粋し、まちづくりや地震・津波対策などについて紹介しました。
後編は、教育・福祉などについて出された意見や要望をピックアップして紹介します。
※下記数字は分類ごとに示された意見等の数

問い合わせ
企画課 ☎57-8503

教育

32

●生涯学習

生涯学習関係で、スポーツや文化活動も非常に大事な教育活動の一環であると思う。一般の方やサークル、小中学校・高齢者の方々が一緒になっての音楽祭などを合併してから行っているが、香南市の文化活動を底辺から支え、発展させていくという面では、大事な取り組みではないかと思う。スポーツや文化活動にできるだけ積極的なご支援をいただき、学校教育と両輪で発展していくような取り組みをお願いしたい。

A

昨年4月より中学校の新しい指し込まれたものが2つあります。一つは文化財の活用。もう一つは、部活動に地域の教育力を活用しない、ということ。文化財の活用については、地域の方々のお力を借りなければできません。また、スポーツ活動でも、それぞれの地域に優れた方がいますので、ぜひ協力していただきたいと思えます。なお、赤岡中学校や岸本小

●いじめ問題・教師

いじめ問題について、大津市の事件を受けて全国的にいじめ防止対策の条例が制定されているが、どう考えるか。
また、教師について、アンケート調査で「教師としての自信があるかどうか」という問いに、ほとんどの先生が低い自己評価をしている。子どもにとっての最大の教育環境は教師自信であり「教師は生徒の鏡である」と思っている。それによつて成長もあれば後退もする。自信を持つる教師を育てていただきたい。

A

いじめ防止条例を作つて、いじめがなくなるとはあまり思えません。いじめを行う子どもたちは、欲求不満や満たされるものがなかったり、自尊心が低いと言われています。それぞれの子どもたちが自分に自信を持てるように、そしてかけがいのない命だと思えるような手立てを丁寧に行っていくことが、人を大事にしていけることにつながると思います。いじめは、早期発見と適切な対処が非常に大事です。また、教師と子ども、教師と家庭、地域が信頼関係を築き、子どもの変化に早く気づくことが大事であると考えます。
教師の自信についてですが、教育への価値観が随分多様化してきています。そのよくな中、教員もどう対応していいのかわからず不安になっています。さまざまなケースへの適切な対応ということを学習したり、以前と比べ校内研修も随分充実していますので、教員も自信を持って取り組めるように指導していきたいと思えます。

学校では、それぞれの運動会が地域ぐるみで行われています。子どもから青年、高齢者までみんなで運動会を盛り上げていくことは、大事な地域での連携であると思えます。
それぞれ個性や興味も違うので、ご要望を出していただき、それぞれに添えていけるようなサークル作りなどにも取り組んでいきたいと考えています。現在、文化協会にはかなり多くの文化サークルがあると思いますが、そうした中で生きがいを見つけていただき、長生きして健康であつていただきたいと思えます。

●夜須中学校区一貫教育構想

夜須中学校区の連携教育の仕組みを一貫教育に切り替えたいという構想が出されている。夜須だけが一貫教育に切り替われば、学力の向上や豊かな人間性を育むという面で格差が生まれてくるのではないかと、という不安がある。特に赤岡中は、全体的に生徒数が減る一方で、10年先には統合しなければ成り立たないようになるのではないかと懸念している。ぜひ、香南市全体が一貫教育に切り替わることを願う。

給食センター 5

●統合給食センター

現在の状況は、前市長は4千食を作ると言っていたが、今もその規模か。統合給食センターの場所は、現在の給食センターから遠くなり、温かい物を食べられないのではないかと懸念される。現在の給食センターの維持は、お金の面で無理か。

A

野市町の本村地区にある用地を取引し、来年度造成工事、26年度の2学期から給食がスタートする計画です。現在は土地改良区の皆さんに対して、雨水対策の説明をしております。具体的には、貯水槽を用意し、少しずつ流して下流に被害がないようにしようと話を進めています。

●現在3,600食です。夜須、香我美、野市の給食センターが古く、衛生管理上良くありません。この3施設の給食を統合給食センターで作るようになります。赤岡の施設は新しいので、現状どおり給食を作ります。高規格道路が開通すると、夜須地区も近くなりますので、どの学校も温かい物は温かいうちに食べられる工夫をしていきます。現在の古い給食センターでこのまま作り続けることが、安全面で大いに問題があります。

地産地消推進協議会も発足し、安心安全な給食の提供にも十分気をつけたいと思えます。

A

一貫教育構想については、現在市の課題となつている学力向上や不登校の課題克服に大変有効だと言われていますが、市全域で一斉に始めることは大変困難です。まずは指定地域を決め、カリキュラム等を試行錯誤しながらやってみて、さまざまなデータに基づいて良いところを市内に広げていきたいと思つています。

なお、一貫教育一貫校ではありません。まず最初に、夜須中学校区の地域性を生かし、保・幼・小・中の枠組みはそのままとしながら、より一層の連携を深めようとする取り組みです。他の中学校区でも授業の乗り入れ、例えば体育など専門性のある中学校の先生が、小学校に行き授業をする、あるいは、小学校の先生が中学校に行き、どういう風に育っているかを見ていただいたり、TT(チームティーチング)として2人制で入つていただいたり、といったような取り組みも進めています。

格差については、いろいろな原因が考えられますので、格差のないような取り組みを考えています。例えば、生活背景が苦しい子どもにどうやって家庭学習の習慣をつけるかという課題について、先進地視察などにおける調査・研究を来年度からスタートしたいと考えています。

国保

5

●国保税

香南市の場合、特に資産割の上げ幅が大きい。また、何年後かに上げるときは、資産割を多くするのはなく、所得割とかも考えていただきたい。家や田畑があつてもお金にならないので、検討をお願いしたい。

A

合併後、毎年医療費が急激に伸びています。23年度は、前年度と比べて約1億3,800万円増加しました。合併後、国保税率を19、21、23年度の3回改定させていただき、23年度に初めて資産割を上げさせていただきましたが、今後、国保税を上げなくてはならない時には、資産割について考慮し検討したいと考えています。

健康づくり

2

●避難するための健康づくり

避難するためには、歩けなくてはならない。足腰を丈夫にするためにも、市を挙げて単発のイベントで終わらない、習慣化できるような健康づくりのシステムを作つていただきたい。

A

市では健康推進員協議会の組織があり、5つの支部(地区)で活動しています。活動は同じようなレベルではないですが、健康推進員さんを中心に毎年行っているウォーキングを、今年は吉川で

